

# お茶大 Moodle (Chimes) の活用

桑名杏奈\*1・笹倉理子\*2・浅本紀子\*3

Email: kuwana.anna@ocha.ac.jp

- \*1: お茶の水女子大学 情報基盤センター  
 \*2: 電気通信大学 教育研究技師部  
 \*3: お茶の水女子大学 基幹研究院 自然科学系

©Key Words LMS, Moodle

## 1. はじめに

お茶の水女子大学では2000年代中頃に、語学系の授業や自習での利用を主目的として Moodle が導入された。2006年度より情報処理センターへサーバ管理を移管、一般の授業に利用が広がった<sup>(1)</sup>。

最近では学内での認知度も上がり、授業だけでなく全学の教職員向けの研修、情報共有などにも一部利用されている。また、学内から「学科内で学生と教員の情報共有にしたい」「現在紙ベースで申請を受けている事務手続きについて、オンラインで申請を受け付けたい」などの依頼があったとき、新たに専用のシステムを立てるのではなく Moodle の一コースを提供する機会が増えている。本発表では Moodle 導入からこれまでの経緯、最近の利用の状況についてまとめ、授業以外の利用事例をいくつか紹介する。

## 2. お茶の水女子大学と Moodle

### 2.1 大学概要

お茶の水女子大学は東京都文京区にある国立の小規模な女子大学である。小規模ながら3学部(文教育学部・理学部・生活科学部)1大学院(人間文化創成科学研究科)と、幼稚園・小学校・中学校・高校の各附属学校園を擁する。Moodle を利用するユーザの規模は、学生約3000名、教員約300名(学部・大学院専任約200名+センター・機構約100名)、附属学校園教職員約100名、事務職員100名に加えて、附属高校の生徒が約360名程度である。

### 2.2 お茶大 Moodle (Chimes) 概要

学内では「お茶大 Moodle」または「Chimes (チャイム

ス: oCHadai Information, Media and Education Square)」の名称で認識されている。教務システムの一部として位置づけられ、開講されるすべての授業を事前にコースとして登録しており、授業担当者は使用申請をすることなくすぐに利用が開始できる。CAS 認証プラグインを利用し、大学の統合アカウント(通称:お茶大アカウント)でシングルサインオンできるように設定してある。

2012年度まで長らく Moodle1.9 を使用していたが、2013年度から Moodle2 系に移行し、Chimes という通称を冠した<sup>(2)</sup>。2013年度以降は、図1のようなサイクルで、毎年度新しく学内の仮装基盤上に専用のサーバを立て、その時点での最新リリースの Moodle を構築している。これは年を追うごとにコース数が増えて動作が重くなることを防ぐためと、セキュリティに配慮するためである。

- 準備: 前年度後半に新たにサーバが立てられ、Moodle がインストールされる。関係者間で動作確認をする。前年度末(3月頃)には当該年度に開講予定の授業のコースが作成され、授業準備を始めた教員向けに、学内からのみアクセス可能とする。
- メイン公開期間: 当該年度の始まりとともに DNS が切り替えられサービスインする。利用者はいつでも同じ URL にアクセスすれば、当該年度の Moodle にアクセスできる。
- バックアップとして公開: 翌年度はバックアップとして学外向けに公開される。
- 公開終了: 翌々年度になると学外向けの公開を終了する。

学内での名称	Moodleリリース	2012年度以前	2012年度後半	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
Moodle	1.9	メイン公開期間	バックアップ	公開終了				
(実験用)	2.2		メイン公開期間	バックアップ	公開終了			
Chimes2013	2.4		準備	メイン公開期間	バックアップ	公開終了		
Chimes2014	2.6			準備	メイン公開期間	バックアップ	公開終了	
Chimes2015	2.8				準備	メイン公開期間	バックアップ	公開終了
Chimes2016	3.0					準備	メイン公開期間	バックアップ
Chimes2017	3.2						準備	メイン公開期間

図1: お茶大 Moodle のライフサイクル

表1 お茶大 Moodle の利用状況 (Chimes2017 は2017年6月14日までの数字)

項目	Chimes 2013	Chimes 2014	Chimes 2015	Chimes 2016	Chimes 2017
(1) メイン公開期間中にログインしたことのあるユーザ数	1111	2540	2537	2945	1955
(2) 活動のあったコース数	140	1184	181	162	103
(3) フィードバック総数	25	23	33	69	33
(4) ファイル総数	8609	6916	5876	8444	4650
(5) フォルダ総数	32	68	105	79	71
(6) フォーラム総数	55	55	54	39	34
(7) メッセージ総数	383	64	158	147	2159
(8) クイズ (課題) 総数	518	426	478	480	425
(9) Wiki 総数	5	2	5	2	10
(10) ワークショップ総数	3	2	2	0	0
(11) 投稿数	1312	1885	2972	3861	4100
(12) リソース数	3870	2417	1594	1068	957

### 2.3 利用状況

2013年度以降の、年度別の利用者数・活動やリソースの総数を表1にまとめる。

(1)は、メイン公開期間中 (Chimes2013は2013年4月1日～2014年3月31日) に一度でもログインしたことのあるユーザ数であり、Moodleの実質的な利用者数として考えている。利用者数は年々増加傾向にある。実感としても、年々、授業・授業外問わず、Moodle利用者からの問い合わせ数は増えている。

(2)は、何らかの活動が行われたコースの数である。2014年度は、シラバスシステムの不調で急遽 Moodle でシラバスの機能も提供していたため、その分、コース数が増加している。

(3)～(10)には、よく使われる活動・リソースの総数を記載した。(3)フィードバックはアンケートのためによく使われており、年々利用が増加している。(4)ファイルは、教員からの配布資料はもちろん、学生が課題などで提出したファイルも含まれる。(7)メッセージはChimes2017で爆発的に利用が増えた。教員からのお知らせ、教員と学生の日常的なやりとりに加え、情報系授業の課題として学生同士で試しにメッセージをやりとりされているため、テスト的な投稿が多くを占めると考えられる。(8)課題は、Chimes2017は6月14日時点で、Chimes2014と同程度・Chimes2016の89%の利用がある。今後まだ利用数の増加が見込まれる。

(11)～(12)はMoodleの管理画面からの抜粋である。(6)フォーラム総数が増加していないのに(11)投稿数が増加しているのは、情報共有のために利用されているコースで、前年度のフォーラムを投稿ごと次年度のMoodleにインポートしているためと思われる。

### 3. サポート体制

利用方法の案内を説明する専用のコースを作成し、全ユーザが閲覧できるよう登録してある。最低限のFAQを「ページ」で作成し、すぐに閲覧できるようにした(図2)。初めてお茶大Moodleを利用する人向けには、Moodleの基本的な使い方、一通りの機能の紹介

をまとめた「スタートガイド」を作成している(図3)。



図2 利用方法案内ページ



図3 教師用スタートガイド

2012年度から、お茶大Moodleに関する質問受付用として代表メールアドレス (moodle@cc.ocha.ac.jp) を取得し、Moodleのトップページや各種リンク元に掲載している。技術的な質問への対応の実働としては、2012年度～2016年度の間は情報基盤センターの2名で対応していたが、質問数が増加したことを受けて、2017年

度からは情報基盤センターの5名が代表メールを受信するようになっている。

#### 4. 授業以外での利用事例

##### 4.1 「フォーラム」を用いた情報共有

アルバイト学生と職員、教職員同士の情報共有のため、それぞれ専用のコースを作成し、関係者を登録している。主に「フォーラム」を用いて、引き継ぎ事項や連絡事項、Q&Aを書き込んでいる。コース内に知識が蓄積されていくため、突発的なトラブルが起こった時に過去ログを検索するとか、重要事項を抜粋して新任者への研修の用途にも利用できる。1コースは2012年度よりも昔から長年利用されている<sup>(3)(4)</sup>。2014年度に1コース、2016年度にさらに1コース、新しく利用が開始された。

##### 4.2 「データベース」を用いた情報共有

事務部の複数部局にまたがった情報共有のために、2016年度、専用のコースを作成した。「フォーラム」のように自由記述するものではなく、入力項目があらかじめ決まっているものであるため、「データベース」を利用している。今まで使っていた商用データベースの保守が切れたため、その代替として利用が開始された。

図4 エントリ追加画面（一部抜粋）

図5 一覧表示（イメージ図）

##### 4.3 「課題」や「フィードバック」を用いた提出物の回収

事務部において、従来、紙や電子メールで学生から受け付けていた報告書や申請書の類を何らかの電子システムで処理したいという依頼が、2016年度以降増加している。3コースは既に利用が開始されており、2コースは使用方

法について、現在検討中である。ファイルを提出する案件は「課題」、テキストデータを提出する案件は「データベース」や「フィードバック」が主に使われている。利用者の希望を聞いて、できるだけ希望に沿うよう、個別にサポートしている。Moodleは授業での利用が想定されているためか、申請書の処理において「いくつかの部署・人を順に回って承認を受ける」という操作がしづらく、実現手段を検討している。

##### 4.4 「ファイル」を用いたデータ配布

ペーパーレス会議において、会議の資料を会議参加者が手元のコンピュータやタブレット端末にダウンロードするために、会議ごとにコースを作成、会議の構成員を各コースに登録した。主に学内の別システム（グループウェア Aipo<sup>\*</sup>）が使われており、Moodleはアクセスが集中して Aipo がダウンした時のバックアップという位置付けで準備をしてある。2015年に1会議（4コース）、2016年に1会議（1コース）を作成し、月に約一回ずつ会議が開催されているが、2017年6月現在まで、Aipoがダウンしたことはない。

\* TOWN 株式会社グループウェア Aipo

<https://free.aipo.com/>

##### 4.5 「ページ」や「小テスト」を用いた自習教材の提供

学生向け・教職員向けに、それぞれ情報倫理・情報セキュリティに関する自習教材を提供している。トピックごとに「ページ」で説明をし、「小テスト」で簡単に内容の確認を行う。毎年 Moodle サーバの切り替えのタイミングで、可能な限り最新の話題を提供するよう、内容の更新を行なっている。

図6 学生向け情報倫理自習コース

#### 5. 授業での利用事例（ビデオ教材との連携）

お茶の水女子大学では、以前より授業動画の撮影と利用に積極的に取り組んでいる<sup>(5)(11)</sup>。品質の良い e-Learning 用動画を作るのには時間もコストもかかる。授業履修者の予復習・自主学習という用途を前提とし、「簡単・安価にできること」を優先して、授業動画の撮影・利用を行っている。授業動画の Moodle でのコース内配信は2012年度から行なっており、該当コースに登録されている者のみが動画をストリーミングで閲覧できるようにしている。動画の録画と視聴については2014年度から専用の授業配

信システムを導入して運用しているが、その他に Moodle での配信も引き続き行なっている。2017 年度前期は座学の 1 授業で授業の撮影が行われている。Moodle の該当コースに登録されている者のみが、授業動画を閲覧できる。

## 6. まとめと今後の課題

お茶の水女子大学では長年 Moodle を運用している。年々利用者が増えており、授業に限らず色々な用途で利用されている。

今後の課題として二点、現在は新規入学学生や新規採用職員のデータを手作業で登録している。大学の統合アカウント処理システムと連携させ、統合アカウント処理システムに登録されると Moodle にも自動でユーザが作成できるよう検討中である。また、アクセスが集中するとダウンすることがある (2017 年度 4 月 1 日～6 月 14 日の間で 3 回)。データベースのチューニングや、サーバのリソースの調整を行なっている。

## 参考文献

- (1) 笹倉理子、桑名杏奈、池田佳奈子、袁雪、柿木彩香、新保茜、浅本紀子："大学の授業における LMS の活用を支援する取り組みについて", お茶の水女子大学教育機構紀要『高等教育と学生支援』, 3, pp.54-65, 2013.
- (2) 笹倉理子、桑名杏奈、浅本紀子："Moodle を活用した授業動画の簡易配信について", 2014 ムードルムート, 2014.
- (3) 桑名杏奈："情報共有を目的とした LMS (Moodle) 利用の一例", お茶の水女子大学教育機構紀要『高等教育と学生支援』, 1, pp.56-58, 2011.
- (4) 池田佳奈子、桑名杏奈："授業外での LMS (Moodle) 利用の実践報告", 情報知識学会誌, 23(2), 2013.
- (5) 小林彩音："講義動画のストリーミング配信とその効果", 2012 PC Conference, pp.17-18, 2012.
- (6) 笹倉理子、桑名杏奈、池田佳奈子、袁雪、柿木彩香、新保茜、浅本紀子："大学の授業における LMS の活用を支援する取り組みについて", お茶の水女子大学教育機構紀要『高等教育と学生支援』, pp.54-65, 2013.
- (7) 笹倉理子、浅本紀子："授業動画の LMS での簡易利用", 2013 PC Conference, pp.83-84, 2013.
- (8) 笹倉理子、桑名杏奈、浅本紀子："Moodle を活用した授業動画の簡易配信について", MoodleMoot Japan 2014 Proceedings, pp.48-53, 2014.
- (9) 笹倉理子、浅本紀子："「情報科教育法」における授業動画の簡易配信システムの利用』 2014 PC Conference, pp.218-221, 2014.
- (10) 堀越夏実："授業動画のオンライン活用", お茶の水女子大学卒業研究要旨集, pp.77-78, 2015.
- (11) 山口健二、桑名杏奈、浅本紀子："授業配信システムの利用事例報告 (2016 年度)", お茶の水女子大学教育機構紀要『高等教育と学生支援』, pp.48-52, 2017.